分苑たより　なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長　如月　月次祭挨拶

如月月次祭に参拝して頂き誠にありがとうございます。

昨年から皆様方にはコロナウイルス感染者が非常に拡大している中で人型大祓いのご用に一方ならぬご奉仕をいただき厚く御礼申し上げます。

無事二月三日の節分大祭に間に合うようにお届けいたしました。

瀬織津姫・地方祭員にご奉仕された方々おつかれさまでした。

近年人型活動にご尽力いただいていた方々が健康上の都合でご辞退されておられましたが、お陰様で名古屋分苑として人型九千九百五十五体、型代六千四百五十九体、お玉串三百五十万二千百二十円、企業用四十九枚、お玉串四十九万円、合計で約四百万円を納めることが出来ました。

尚、個人で本部へ持参された方は名古屋分苑としては扱いされません。二月七日付けで本部祭祀部より連絡がありました。

人型活動がひと段落しましたが令和五年用の人型申込が来ています。五月月次祭までには申込枚数ポスターの枚数を連絡して下さい。

節分以降大本開教百三十年に入り月次祭祝詞の中で綾の郷建設のご造営事業が掉尾・祝詞にはてうびを飾ると明確に描かれています。各家庭でも月次祭を新しい祝詞で奏上して下さい。

今月二月五日、月始祭終了後、令和三年度の会計監査をして頂きましたが、監査の中で特に指摘はありませんでした。温かいアドバイスを頂き、今後の会計処置で大いに役立てたいと思います。

今日は、この後、令和三年度の決算報告を総代会にて審査していただきます。

今後の分苑行事では二月二十六日(土曜日)・二十七日(日曜日)は従来東海サミットを長野主会で予定していましたが、コロナウイルス感染まん延防止が発令されているため中止になりました。

この機会に、松を植林している可児市の草苅と海津市のコンクリートパネル撤去を二組に分けて行います。大勢の方達の協力をお願いいたします。

名古屋分苑の玄関、東西の南側柱の腐食防止を設計施工、森満政様　金属加工、妹尾正治様のご奉仕で施していただき、ありがとうございました。

三月六日（日曜日）には、東海サミットの縮小版として七教区の主会長と本部総代・東海教区総代・本部審査員二名と特派の計十二名で顔合わせと各地の実情を話し合う機会を名古屋分苑に集合して行います。

会議の内容につきましては三月の月次祭の挨拶の中で報告させていただきます。

四月春の大祭につきまして今回は北一支部の方が大祭執行委員長で副が、さわやか支部になっています。

すでに慰霊祭の申し込みと大祭講師の依頼申請は提出しています。

三月の五日月始祭終了後各役員会の予定が入っていますが大祭についても会議を行います。

今日の月次祭ご参拝誠にありがとうございました。

名古屋分苑　令和３年度　収支決算書

２月 20 日に開催された総代会にて下記のように収支決算書が承認されました。

自　令和3年01月01日
至　令和3年12月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
玉串料	2,371,980	祭務費	489,139
本部交付金	791,792	玉串費	360,312
分苑維持献金	1,429,710	教化費	234,995
雑収入	8,140	総務費	1,185,274
		維持費	841,175
		厚生費	109,600
		小計	3,220,495
		当期収支差額	1,381,127
合計	4,601,622	合計	4,601,622

行事報告

●月始祭
二月五日（土）
参拝者　十五名
斎主　見田すみ子
祭員　畠山　茂
進行　堀　和子

●月次祭
二月二十日（日）
参拝者　二十六名
斎主　飯田　和彦
祭員　近藤　哲史
祭員　日比　達朗
典礼　妹尾　正治
裏方　畠山　茂
伶人　飯田　直美
伶人　長谷川美枝
伶人　伊藤恵美子
進行　青山　将士

●松植樹地の献労作業
二月二十七日（日）午前十時から十二時まで海津市・可児市の献労作業を二組に分かれて行った。
海津市では数本の松が枯れたため、補充・追加植樹を二十本、行った。併せて廃棄されていたコンクリートパネル七十枚ほどをトラックに積み込み撤去した。
参加者　八名
可児市では分苑用の松を二百本ほど採取した。その後に草刈りなどの土地整備を行った。
参加者　五名

海津市

可児市

可児市

●節分大祭ご奉仕
二月三日（木）
地方祭員　日比達朗
瀬織津姫　國方智世

行事予定

三月二十日（日）
月次祭　午前十時半より
尾張戸神社　遥拝祭
前期機関長会議
四月二日（土）
月始祭　午後一時半より

言葉の力　その④

特任宣伝使　妹尾　正治

『一椀を減ぜよ　人のために　一尺を譲れよ　人のために』日出麿先生の「生きがいの確信」の中の言葉で、質素に謙虚に生きなさいと云うお示しです。

色々な人が同じ様な意味合いの言葉を残しています、南米ウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカさんは『私は少しのモノで満足して生きている。質素なだけで貧しくはない』と、又古代の哲学者セネカの言葉『貧乏とは少しもっていないことではなく、無限に欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ』と言っています。世界で一番幸せな国ブータンの国王夫妻が２０１１年に来日され、この国の「幸せのあり方」が一躍注目されることになりました、まず国の方針が「経済的な豊かさではなく　精神的な豊かさを重んじる」と日本の目指す方向とは随分違います、さらに「足ることによる幸せではなく　当たり前の生活を送れる幸せ」を国民が素直に受け止めています。

これは、真実であり、そうあるべきだと思いますが・・中国の明の時代に書かれた「菜根譚」には、こんな言葉が有ります『地の穢れたるは、多くの物を生じ、水の清めるは、常に魚無し』理想は正しいし、間違ってはいない、でも理想だけでは息苦しくなってしまう、汚く見える土には栄養がたっぷり有って作物が良く育ち、きれいすぎる水には魚が住めないと言っています。

さて、貴方は何処まで理想を追い続けますか？

今回、セネカの哲学書とか洪応明の菜根譚の所在を初めて知りました（恥ずかしい！）私も勉強します、是非皆さんも！！